

「ワーカーズコープ」寄附講座運動④ ー「協同」を「学ぶ」ステージから「体感する」ステージへー

この間、協同の発見誌上で、ワーカーズコープ寄附講座の特集を組んできた*1。

2015年に沖縄大学から始まり、開始から5年を経過するなかで多くの学校で寄附講座を開講し、各大学の学生状況、担当する先生、関わるワーカーズコープ事務局の想いにより、各大学で独自のカリキュラムが発展し、学びを深めている。

○各年度の開催校と特徴○

年度	開催校と特徴
2015年度 1年目	沖縄大学(1大学) ※沖縄大学で始まり、一般公開講座など開かれた環境のなかで寄附講座が始まる。
2016年度 2年目	沖縄大学、沖縄国際大学(2大学) ※グループワーク(沖縄国際大学)やフィールドワーク(沖縄大学)が行われ、学生が主体となる学びのあり方が探究される。講義を聞いた学生が「協同労働」に触れる中身で、野村総研小論文コンテストで奨励賞をいただく。
2017年度 3年目	沖縄大学、沖縄国際大学、久留米大学(3大学) ※久留米大学では、労働者協同組合以外の協同組合関係者が集まり、講義を組み立て、沖縄国際大学でも、沖縄の協同組合関係者や地域づくり実践者が登壇し、「協同」や「協同組合」のネットワークづくりが広がる。
2018年度 4年目	沖縄大学、沖縄国際大学、久留米大学、沖縄キリスト教学院大学、千葉大学、福島大学、和歌山大学、桃山学院大学、琉球大学(9大学) ※3大学から9大学に広がり、運営事務局も協同総研とともに、センター事業団各事業本部・事業所が主体になり始める。それぞれの大学に合わせた特徴的なカリキュラムが生まれ始める。担当する先生からの紹介で、センター事業団に入団する人が生まれる。
2019年度 5年目	沖縄大学、沖縄国際大学、久留米大学、沖縄キリスト教学院大学、千葉大学、和歌山大学、桃山学院大学、琉球大学、埼玉大学、新潟大学(10大学) ※複数訪問するフィールドワーク、演劇ワークショップ等のグループワークの進化、学生主体のシンポジウム開催(埼玉大学)、講座終了後インターンシップの開催(千葉大学)など、より学生がアウトプットする場面が生まれ、「協同」を学ぶとともに、「協同」を感じる場を作りだしている。

○5年間を通じての寄附講座の成果○

- 1、学生の学びとして「協同の生き方・働き方と出会う」「つながり・多様性など自分と他者・社会の関係性を考える」「自分の意見を持つことの大切さ」を実感する。
- 2、講座に関わる教員・ゲストスピーカーとの日常的な連携・交流が生まれ、協同労働の協同組合の事業・運動に活かされ始めている。

*1 『協同の発見誌299号(2018年10月号)』『協同の発見誌310号(2019年9月号)』『316号(2019年3月号)』である。その他、「協同の発見誌277号(2015年12月)』『288号(2016年11月号)』でも他テーマであるが沖縄大学、沖縄国際大学の取り組みを取り上げている。

- 3、学生の「労働観」「社会観」「地域観」「人間観」を知り、質問内容を交流することで、学生の視点から協同運動をどう推進すればいいのかのヒントがある。(学生から聞かれるワーカーズコープに関わる5大質問*2等)
- 4、学生に分かりやすく伝えるために「協同労働」や「実践の意味」を深める機会になっている(埼玉大学では大学OB・OGが報告)
- 5、結果として協同労働に関わる論文が書かれたり、組合員になる事例が生まれている。

2015年度～2018年度の4年間が「ワーカーズコープ寄附講座1.0」であり、この5年目で「ワーカーズコープ寄附講座2.0」に入ったと考えている。それは5年目が「学生が主体となる協同労働による社会や地域づくり」にむけて、「協同」を「学ぶ」ステージから、「体験・体感する」ステージへの萌芽が見え始めたからである。

○2020年度の寄附講座の展望○

- 1、学生自らが寄附講座に関わり、カリキュラムづくりを行うことに挑戦する。
- 2、寄附講座を開催している学校間連携(沖縄モデル)と、寄附講座を通じて地域戦略づくり。(大阪和泉市等)
- 3、5年間の寄附講座の学びを元に、共通で使える寄附講座で使用するテキストづくり
- 4、講座で学んだことを、実践に移すOS(Operation System)づくり。(インターンシップ・職場体験・活動づくりをワーカーズコープの現場や関連団体と連携する)
- 5、大学生のなかには、予め進路を決めて入学する人もいるので、その前段である小・中・高校生へのアプローチを本格的に始める。学校内の「総合的学習の時間」「ボランティア体験」や、ワーカーズコープが運営している「児童館・学童クラブ・学習支援事業」等を入口にして考えたい。

寄附講座の出発点は、2014年労協連総会の議案「ワーカーズコープ学校・会館建設に向けた提言」である。既存学校の枠組みだけで考えるのではなく、多様な「協同」を学ぶ場とともに「体感する」場をつくりながら、若い人たちが「協同」で「社会」「地域」「仕事」をつくるプラットフォームを労働者協同組合法の動きとあわせながらつくりたい。

本誌では2020年度の展望の萌芽の動きをみなさんと共有するとともに、寄附講座の全国開講と寄附講座2.0運動を会員のみなさんと進めていく契機としたい。

相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)

* 2「1、食べられますか(生計が立てられますか) 2、働いていない自分でも、関わることはできますか。3、地域づくりと言ってもピンとこない。地域の人が集まるにはどうすればいいのか。4、協同労働のメリット・デメリットとは。5、ワーカーズコープは事業体としてやっていけるのですか。

2019年度ワーカーズコープによる寄附講座の開講カリキュラム紹介 (千葉大学・久留米大学・沖縄キリスト教学院大学)

2019年度 千葉大学 ワーカーズコープ寄附講座カリキュラム(入門編・実践編) 普通教育科目「地域で仕事をおこす・入門編」

講義回	日程	内容	担当
第1回	6月12日 2限(10:30～)	ガイダンス：“働く”と協同労働	伊丹謙太郎・相良孝雄
第2回	6月19日 2限(10:30～)	地域に疲弊と仕事おこしー全国事例と歴史	相良孝雄
第3回	6月26日 2限(10:30～)	センター事業団東関東事業本部の実践①労働と社会連帯	大場寛・安村佳晃
第4回	7月3日 2限(10:30～)	センター事業団東関東事業本部の実践②ユニバーサルな就労環境	小林文恵・宇本永宏
第5回	7月10日 2限(10:30～)	ワーカーズコープちばの実践①生活困窮者問題への取り組み(貧困)	菊地謙
第6回	7月17日 2限(10:30～)	ワーカーズコープちばの実践②学習支援(職業選択の際の基準)	中野佑樹
第7回	7月24日 2限(10:30～)	新しい“働く”に向けて - 国際社会の動向と協同労働の未来	相良孝雄
第8回	7月31日 2限(10:30～)	インターンシップガイダンス	伊丹謙太郎・菊地謙・大場寛・安村佳晃・相良孝雄

「地域で仕事をおこす・実践編」

1単位 8～9月での現場実習先(大学院生 5名 学部生 1名参加)

○ワーカーズコープちば・・・フリースタディー習志野(学習支援)、フードバンクちば、

○センター事業団・・・浦安地域福祉事業所(学童保育)

2019年度 久留米大学「協同組合概論」カリキュラム

科目名	期別	単位数	開講年次	曜日時限	担当教員名
協同組合概論	前期	2	2	金 3	伊佐 淳
講義の目的と概要	この講義の前半では、協同組合の基本を学ぶとともに、農協、生協、漁協、森林組合、信用金庫といった各種協同組合の地域での実践に焦点をあて、協同組合がまちづくりや働く場づくりにどのように取り組んでいるかについて学びます。後半では、ワーカーズコープ(協同労働の協同組合)の理論と実践に焦点をあて、学びます。				
	この講義の目的は、第一に、協同組合の基本を理解するとともに、地域の多様な協同組合の実践から幅広く協同組合について学ぶことにあります。そのうえで、第二に、ワーカーズコープに焦点をあてることで、職業選択の際に、協同労働という「働き方の選択」、「働くことの意味」について皆さんと共に考えたいと思います。				
授業計画	4月12日 第1回	ガイダンス	(伊佐淳、ワーカーズコープ・センター事業団)		
	4月19日 第2回	協同組合とは	(横川洋 九州大学名誉教授)		
	4月26日 第3回	生活協同組合①	(エフコープ生活協同組合)		
	5月10日 第4回	生活協同組合②	(グリーンコープ生活協同組合ふくおか)		
	5月17日 第5回	森林組合	(福岡県八女森林組合)		
	5月24日 第6回	農業協同組合①	(福岡県農業協同組合中央会)		
	5月31日 第7回	協同労働①	(ワーカーズコープ・センター事業団)		
	6月7日 第8回	漁業協同組合	(福岡県有明海漁業協同組合連合会)		
	6月14日 第9回	協同組織金融機関	(九州北部信用金庫協会)		
	6月21日 第10回	農業協同組合②	(久留米市農業協同組合)		
	6月28日 第11回	協同労働②	(ワーカーズコープ・センター事業団)		
	7月5日 第12回	協同労働③	(ワーカーズコープ・センター事業団)		
	7月12日 第13回	協同労働④	(福岡県高齢者福祉生活協同組合)		
	7月19日 第14回	ワークショップ	(伊佐淳、ワーカーズコープ・センター事業団)		
	7月26日 第15回	まとめ	(伊佐淳、ワーカーズコープ・センター事業団)		

2019年度 沖縄キリスト教学院大学「ワーカーズコープ論」カリキュラム

科目名	期別	単位数	開講年次	曜日時限	担当教員名
ワーカーズコープ論 Theory of Workers Co-operative	前期	2		水 3	玉城 直美
講義テーマ・到達目標	ワーカーズコープ(協同労働)の組織形態・実践などを通じて、「働くこと」・「生きること」の意味や持続可能な地域づくりについて理解することができる。 知識理解: 協同労働という働き方や地域に必要な仕事おこし・まちづくりの中身や流れを理解する。 関心意欲: 人間らしい働き方・生き方や、持続可能な地域づくりに関心を寄せることができる。 思考判断: ワーカーズコープ(協同労働)の今後や取り組みに対し個人的な判断をもつことができる。 態度: 授業への積極的な参加および自主学習への取り組み				
授業計画	第1回(4月10日) ガイダンス ・ 講座の流れ、学生に求められること、評価など ・ これまで地域活動を行った経験を持っているか? 【事前学習】「働くこと」・「生きること」について考える。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第2回(4月17日) 市民社会における協同組合とワーカーズコープ(協同労働) ・ 社会における協同組合やワーカーズコープ(協同労働)の立ち位置 ・ 協同組合の定義・価値・原則(他の非営利組織との比較) ・ 協同組合におけるワーカーズコープの立ち位置 【事前学習】協同組合やワーカーズコープについて調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第3回(4月24日) ワーカーズコープ(協同労働)が目指すもの① ・ 世界におけるワーカーズコープの取り組み(スペイン・イタリア・韓国など) ・ 日本におけるワーカーズコープの成り立ち ・ 社会的排除の闘いとソーシャルインクルージョンに向けて 【事前学習】世界や日本のワーカーズコープについて調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第4回(5月8日) ワーカーズコープ(協同労働)が目指すもの② ・ 映画「ワーカーズ 被災地に起つ」から現代社会におけるワーカーズコープの価値を学ぶ 【事前学習】東日本大震災やワーカーズコープについて調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第5回(5月15日) 九州沖縄におけるワーカーズコープの実践 ・ 活動領域、内容、事例を通じて九州沖縄におけるワーカーズコープを学ぶ 【事前学習】九州沖縄でのワーカーズコープについて調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第6回(5月22日) ワーカーズコープに関わる沖縄の企業とSDGs(沖縄物産企業連合) ・ ワーカーズコープとともに活動する企業の価値観・企業理念・活動 ・ SDGsをキーワードに、持続可能な地域づくりを学ぶ 【事前学習】沖縄物産企業連合やSDGsについて調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第7回(5月29日) 沖縄におけるワーカーズコープの実践(沖縄高齢者協同組合) ・ 沖縄高齢者協同組合の成り立ち・理念・活動 【事前学習】沖縄高齢者協同組合や高齢者配食について調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				
	第8回(6月5日) 沖縄におけるワーカーズコープの実践(那覇) ・ ワーカーズコープ那覇の成り立ち・理念・活動 ・ 地域に必要な仕事おこしや活動の実践例 【事前学習】那覇の地域課題やワーカーズコープの活動について調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。				

授業計画	第9回(6月12日) 沖縄におけるワーカーズコープの実践(名護) ・ワーカーズコープ名護の成り立ち・理念・活動 ・地域に必要な仕事おしや活動の実践例 【事前学習】名護の地域課題やワーカーズコープの活動について調べる。 【事後学習】本授業で出てきた用語などを新聞・文献・ネットで調べる。 第10回～第13回 フィールドワーク活動 ・グループに分かれて那覇と名護のワーカーズコープでフィールドワーク ・実際に組合員や利用者に関わることによってワーカーズコープの価値と今後を知る 【事前学習】実習先の活動等について調べる。 【事後学習】フィールドワークで取り組んだこと・学んだことを振り返る。 第14回(7月17日) フィールドワークの振り返り ・実習先の特徴や長所、課題を動画(3分程度)でまとめることで協同労働への理解促進 【事前学習】実習先の特徴・長所・課題をまとめる。 【事後学習】製作した動画を通じて実習先や協同労働の強み・課題を振り返る。 第15回(7月24日) まとめ ・動画プレゼンテーション 【事前学習】これまで学んできたことを整理する。 【事後学習】講義全体を振り返る。
内容	地域の中で「暮らし続けたい」、「働き続けたい」という持続可能な地域づくり・仕事おしを「協同労働」という働き方を通じて、理論的・実践的に学ぶ内容にしていきます。市民・住民が主体となって地域づくり・仕事おしをするためのあり方と現実をフィールドワークも行いながら考えていきます。 講義全体として「『協同』=心と力をあわせて仕事をする事」をキーワードにした生き方・働き方・地域づくりを焦点にして学生の主体性を重視した講義を展開していきます。